



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

ミサのご案内

◆奉獻生活者のための特別年開年ミサ	日時	11月22日(土)	13時
◆教区主催「死者の月・追悼ミサ」	場所	カトリック浦上教会	
日時	11月23日(日)	11時	
場所	カトリック浦上教会		

日本の信徒発見150周年記念事業 記念式典および製作物について

「ワレノムネアナタノムネトオナジ。」救いの知らせを探し求めた人々が、大浦天主堂で信仰告白したあの日から、4カ月余りで150年を迎える。記念行事の概要は本紙5月号でお伝えしたが、信徒発見150周年記念事業実行委員会(小島 栄委員長)の各部会から提出していただいた式典や行事の詳細を紹介する。現時点で検討中・未定のものもあるが、決定・変更の際は、本紙および教区ホームページなどにおいてお知らせする。

A. 記念式典

(1) 大浦天主堂献堂150周年記念ミサ

日本二十六聖人にささげられた大浦天主堂は、信徒発見の1カ月前、1865年2月19日(日)に献堂された。パリ外国宣教会の年次報告は「あらゆる国と宗教の代表が寛大な心を持って」この教会の建設に協力してくれたと伝えている。

献堂150周年記念ミサは、同聖堂において2月19日(木)19時からささげられる。このミサの中で、新祭壇の祝福と教区シノドス(教区代表者会議)提言に対する大司教署名・承認が行われる。参列のための申し込みは不要。

(2) 浦上教会での叙階式と聖母行列

日本における固有の祝日となる「日本の信徒発見の聖母の祝日」に先立ち、浦上教会で3月15日(日)14時から、叙階式と「信仰を守り伝えた先祖への感謝」の意向でミサがささげられる。申し込み不要。

(3) 聖トマス西と十五殉教者記念庭園祝福式

3月16日(月)16時から、中町教会で聖トマス西と十五殉教者記念庭園祝福式。

(4) 日本の信徒発見150周年祝賀会

3月16日(月)19時から、ホテルニュー長崎を会場に公式祝賀会。

(5) 日本の信徒発見150周年記念ミサ

3月17日(火)の祝日には、招待者のみのミサおよび連続ミサが行われる。大浦天主堂下の大浦教会では、ゆるしの秘跡を受けることができる。当日、大浦天主堂は一日中貸切となっているため、観光を予定されている方々には迷惑をおかけするが、ご理解いただきたい。

①招待者のみのミサ

10時から教区主催の記念ミサが行われるが、特別行事のため招待者のみの参加となる。このミサにおいて教区シノドスは閉会する。

②連続ミサ

6時30分・8時・13時30分・15時30分・17時・19時にミサが行われる。座席確保のための申し込みは次の通り。

(a) 個人(14人以下)で参列する場合
申し込み不要。当日整理券を発行

した典礼」への思慕を深める講演会となった。

この日、カトリック中央協議会が発行する関連書籍の案内・販売もあり、長崎教区から派遣されている嘉松宏樹師(出版部長)やスタッフらが対応、買い求める姿が目立った。

参加者は、「内容は難しかったが、勉強になった。お話の中にあつた、教会の中心は典礼である」と「典礼は人間の成熟のためにあるのであって人間が典礼にしばられてはならない」という言葉が特に印象に残った。



が「生き証人」として憲章に盛り込まれた典礼の神学とインカルチュレーション(土着化)への道を語った。次に「聖書と典礼」編集長でもある石

典礼刷新——これまでとこれから

『典礼憲章』 発布50周年記念講演会

言修道会)は、憲章で強調された典礼への行動的参加が、必然的に宣教を促すものであると指摘した。典礼の持つ豊かさに気づかされ、「生き生きと

前田万葉大司教が着座

9月23日、大阪大司教区でトマス・アクィナス前田万葉大司教の着座式が行われ、会場の大阪明星学園マリアンホールに集まった2500人以上の人々が喜びを分かち合った。

ミサには駐日教皇庁大使館の臨時代理大使ヘルヴェイエ・シユクルレツツ師が出席、多くの司教・司祭団の共同司式で行われた。この日の献金は、前田大司教の前任地である広島で8月に起こった、大雨土砂災害への支援としてささげられた。



「新生・平和」の実現を目指す前田大司教のモットー

は、広島司教時代と同じく「NON MINISTRARI SED MINISTRARE(仕えられるためではなく、仕えるために)」。

7月の教区シノドスでは「教会離れ」が代表議員の関心事となった。我が子、兄弟、親戚に該当者がおられる方も少なくなく、心を痛めておられる方の悩みを聞くこともある。一口に教会離れと言っても、形態はさまざま。原因も多様であろう。そのことは、アンケートからもうかがえる。これらを分析・整理し、有効な対策を打つことは可能なのだろうか。▲韓国の教会には「冷淡者」という言葉があるという。詳しい定義があるはずだが、内容を聞く限り「教会離れ」の信徒を指しているらしい。いったん冷淡者とされると、一定の手続きを踏まなければ、教会に戻れないそう。話を聞きながら、同じことを日本でやると人権問題になりかねない、と思わないでもなかったが、いわゆる「教会離れ」という現実に取り組んでいることは確かだ。▲悲しいことに、人間は他者を非難することに躊躇はしないが、自分のこととなると、少々無理な理屈を捻り出してでも守ろうとする。結果、他者を悪者にしてしまうことさえあるが、その自覚がない場合も多い。私も例外ではない。▲人を回心させる前に、まず自分が回心しなければならい。さらに言わせてもらえば、人に対しては、自分を無にしてただただ仕えようとするばよい。そうすれば、自分の弱さ、虚栄心、意地の悪さがあらわになる。しかし、それでも神は私を愛すること止めないのだ。(S)

C. 製作物

(1) 教区紹介のDVD

フランシスコ・ザビエルから現在に至るまでの、長崎の教会の歴史を紹介するDVDを制作中。来年5月頃に一般販売する予定。価格未定。

(2) 記念メダル・メダイ・御絵・記念切手

5センチほどの記念メダルを1000個作製し、半分は祝賀会の引き出物に、残りの半分は販売予定。メダイは2万個作製予定。御絵は「旧大浦天主堂と現在の大浦天主堂」「旧浦上天主堂と現在の浦上教会」「プナジャンと杉本ゆり」の3種類を作製予定。また旧大浦天主堂・大浦天主堂・旧浦上天主堂・プナジャン・杉本ゆり・出合いの場面などを含む8枚程度の切手シート作成を計画している。

(3) 日本の信徒発見150周年記念誌

記念誌「これは私も受けたものです」(仮題)は、来年3月の出版を目指して準備中。ザビエルの宣教から迫害・潜伏・信徒発見を経て邦人司教区設立までの歴史と霊性をたどりながら、日本の信徒発見150周年を迎える私たちに、記念することの意味を問い掛ける。価格未定。

B. 記念行事

(1) カトリック神学院創立150周年記念ミサ

2015年12月6日(日)に、浦上教会で記念ミサを行う。時間は未定。参加は広く呼び掛けるが、とくに教区司祭、神学校を去って別の召命の道を歩んでいる方、養成に関わった先生やシスター方においていただきたい。ミサ前には、高見大司教による神学校の歴史についての講演を予定している。

(2) 子ども大浦巡礼

各小教区に「巡礼案内書」を送付する。大浦天主堂への巡礼を予定している教会は、案内書に沿って必要事項を記入の上、巡礼の2カ月前までに申し込んでいただければ、後ほど「巡礼者識別カード」をお届けする。このカードを提示すると、高校生以下

の拝観料は無料になる。

また教区内の遠隔地の教会を対象に、中学生以下の巡礼費助成を行う。詳細は「巡礼案内書」を一読いただきたい。

(3) キリシタン資料展

信徒発見をメインテーマに、資料展を通年で開催。場所は浦上キリシタン資料館(長崎市平和町11番19号)を予定。

★ほしかげ★

はじめに

教区シノドスは、「現在の長崎教区を刷新するために、何が必要か？」を教区の信者みなさんで考えてほしいという大司教の意向からスタートした。その意味は、これまで教区方針を上から下へと伝達し、みなさんがそれに一致して向かうことを義務づけていたことを改めて、教区の信徒がすすんで協力できるように、みなさんが考えた方針を優先することがもともと相応しい方法であると考えてのことであった。

1. 思ふこと

「現在の長崎教区はこのままが良いのだろうか？」という問いに対して、関心のある多くの信者たちはそれを否定する。なぜなら何とかしなければ、このままでは長崎教区は衰退の一途をたどり、教会とは名ばかりでその精神は教区とはかけ離れた

ものとなって宣教できる状態ではなくなってしまうのではないかと心配しているからである。キリスト教の伝来以降、迫害の最中であって、1人の司祭もいない状態にありながら潜伏してキリスト教を守り続けた先祖たちの信仰の素晴らしさに倣い、今でもその信仰に生きる信者の生活や、十字架があってもその意味を理解し、喜びをもって生きている姿が多くの人を惹きつける魅力となり、苦しみ悩んでいる人たちが教会に癒やしを求めて訪問するきっかけとなる。現代でも真剣に修行している人を尊敬し、神聖さを敬う人たちがいる。それどころかこんな世界だからこそ本当の神を、そして宗教を探し求めている人たちは少なくない。

そうした人たちにわたしたちは生活をもつて証ししているのか。それに真剣に取り組んでいくことこそ本来の教会の姿であり、多くの殉教者の犠牲の上に

2. 探していたこと

教区シノドスは、今年5月4日、6日の第1会期、7月20日、21日の第2会期、9月14日、15日の第3会期が開催された。15日の第3会期が刷新するかを何をもって教区を刷新するかを、探るにあたり、第1会期終了ま

いま必要なことは

連載・教区シノドスから恵みの年へ⑪

では手探り状態であった。世界司教シノドスの提言を参考にすると、地方教会にとつては具体的ではなく、韓国の大邱教区の第2回シノドスの提言などを参考にすることも長崎教区とは状況がかなり違っていた。しかも、提言書の文書に注意を向けるあまり、「信徒が現状の長崎教区に何が欠けており、何が必要かと

会期中に議員から出された多くの意見をを通して、あらためて信仰を根本的に問い直す必要性が見えてきた。そこにすべての解決を見ることができるといのである。信仰は超自然の恵みであり、神から与えられる恵みである。ならばわたしたちが探していたものは神に祈り求めなければならぬのではないのか。

3. 必要なこと

たまに黙想会の指導のため教会に呼ばれるが、その際、参加者のほぼ全員がゆるしの秘跡を受け、感謝のミサを捧げるときに何とも言えない喜びに満たされることがある。それは子ども、頃、家族で祈りをした後に団欒のひとときがあったが、その時、親が「ここに神様が来てくださった」と言っていた時に感じたのと同じものであった。また、ある小教区で司牧し

わたしたちは、神の子どもとなった信者がいったん教会を離れたかに見えても祈りによって回心の機会が与えられると信じているがゆえに祈りを忘れてはならない。教区にいま必要なのは、教区長はじめ教区の司牧を担っている者が1人でも多くの信徒と一緒に、お互いの回心のために祈りを捧げることではないだろうか。

教区シノドス中央委員会
委員長 山脇守

教区シノドス第3会期を通じて

はじめに

教区シノドス第2会期の内容については教報の9月号(1020号)で簡単に報告したが、今回は第2会期後から第3会期までの経緯と内容を報告する。

7月20日から21日にかけて開催された第2会期で、議員たちは教区シノドスの優先課題として「教会から離れた方々への配慮」と決めた。しかし、優先課題の表題に誤解を招きかねない言葉が使用されているという点で変更が求められているが、今のところこの表題を使うことにしている。

優先課題では、いろんな理由で教会に行くことができない信徒や教会に行きたくない信徒への配慮を考えていくのであるが、第2会期終了後にシノドス各議員へ質問書を送り、「教会から離れた方々」がどんな理由で離れたのかその主な理由を尋ね、さらに問題解決のために何が必要かを提言案

の中から選んで回答してもらった。

9月14日から15日までの第3会期では、議員からの回答を集約した資料をもとに話し合った。その結果、意見を充分に出し尽くしたかは定かではないが、第1会期から第3会期までの議員の意見をもとに、5名の有識者からなる専門委員会に最終提言案作成を依頼することにし、その責任者として古巣 馨師を出席議員の賛成多数で承認した。そして、第3会期終了後、すぐに最終提言案作成に取り組んでもらっている。

1. 喜びをもつてともに歩むため

教会には宣教という使命がある。しかし、宣教するにあたりどこから手を付けていけば良いのか、現状に合った方針が必要である。

司祭は司教から辞令をいただき、主任司祭として小教区の司牧の責任を任せられたときに、まず何を大切にして司牧をしていこうかと考えることから始める。赴任した小教区はどんな雰囲気なのか。若い教会なのか、伝統ある教会なのか。そして信徒の年齢層や教会の特徴は何だろうか、自分なりに観察し、独断と偏見と受け取られるかもしれないが、司牧の方針を決めることは大切である。主任司祭の司牧の方針ははっきりしていれば信徒も協力しやすいのではないだろうか。しかし、「家族的教会づくり」とか「祈りをしましよう」とか方針を決めて、「みなさん、家族的になってください」とあるいは「みなさん、祈ってください」と直接訴えても、簡単に人は動いてはくれないし、喜びや感謝がともなわなければ長続きしない。そのためには直接関係なさそうなどころからでも、何かを始め継続していくうちに喜びが伝わり、感謝の気持ちが湧いてくることで少しずつ目指すものに向かうことができると思う。

ある若い教会で、司祭が完成して

から数年しか経過しておらず、信徒がお互いまだよく知り合っていない状況にあった。できる限りみんなが集まれる機会を作り、お互い親しみを育てるよう、「家族的教会づくり」を目指した司祭がいた。しかし、「家族的教会にしましよう」と言ったところからみんなが「はいそうですか」といつて司祭の理想とした教会づくりにならず、さまた動いてくれるわけではなかった。そこで、その司祭は若い教会であることから教会の設備が充実していないことに目をつけ、しかも若い家族が多かったため、教会の設備を整えるために倉庫作りや車庫作りをお父さん方に頼むことにした。素人の集まりではあるが、信徒の知人に専門家がいて分かれれば、その方をお願いして作業の手順や必要な資材を教えていただき、教会で準備し、集まれる方に手伝ってもらうことにした。作業は遅々として進まないし、専門家がいつでも参加できるわけではない、しかし、できることをやっていくうちに、次第に多くの方々が集まるようになり仕事もはかどっていった。毎日のように仕事帰りに来る人も多くなり、時には教会で奉仕している主人のために奥さんが差し入れをしてくれた。そして、仕事の奉仕をした後に

ていたときに、たまに巡礼で教会訪問に来た信徒の中に突然ゆるしの秘跡を受けたと言いつた。それは、教会に入ったとたん何とも言えない喜びと感動を抱いたからだそう。当時、この教会では子どもからお年寄りにいたるまでたくさんの信徒の祈りが毎日のように捧げられていた。

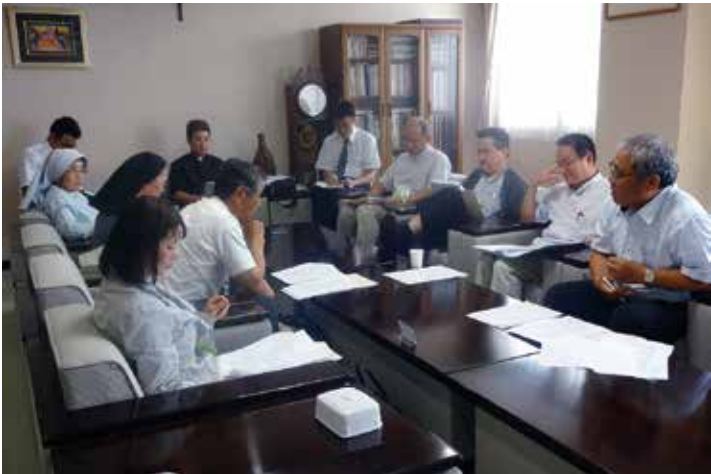


年ごとに力をつけていったからだ。毎年のソフトボール大会での応援もすごい。その打ち上げはさらに賑わった。打ち上げにはできるだけ家族全員が来るように呼びかけ、若い若きも一緒に楽しんだからだった。こうして知り合うことで、主日

のミサにお互い教会で会えるのを楽しみに来るようになり、そうして次の段階へと進んでいけるようになったということであった。

また、伝統ある教会のこと、伝統を重んじつつも、司祭がどうしても変えたい部分があった。それは、漁師が多い教会では父親が月に5日ほどしか帰ってこない。そのため子育てには母親の負担は大きいし、父親が子どもと一緒にできることが少なかつた。そこで「父親も祈ること」を目指すことにした。しかし、直接「父親も祈ってください」と呼びかけても、それまでの習慣はなかなか変えられない。そこで最初に始めたのがシスターにお願いし、しかもお年寄りの協力を得て、朝のミサ前にロザリオを唱えることから始めたという。そして、教会でのミサ前の祈りが習慣になってきたころ、子どもたちに自分の両親のために祈りを捧げることを教え、霊的花束を作り、クリスマスに1年間の祈りを幼子イエスに奉献するようにした。そして、その司祭は子どもたちが親のためによく祈っていることを、父親が休みで帰ってくる度毎に繰り返し伝えたところ、しだいに父親も感謝の気持ちを持つようになったそうである。さらに幼い子どもたちの祈りほどその祈りは貴重であることから、幼い子どもにも祈りを手伝ってもらうようにしていった。父親は幼い子どもまで自分のために祈ってくれていることを知ると、さすがに父親たちは次第に休みに帰ってきたときには子どもと一緒に教会に来て祈るようになってきたそうである。

長崎教区長として高見大司教が着座し「参加し、交わり、宣教する教会をめざす」ことをテーマとして掲げ、教区の方針とした。しかし、この方針で10年近く経過しても教区に活気が見えず、受洗者数や召命の数も減少の一途をたどっている。大司教はこのような状態を見て、どうすれば教区の信者が一緒にあって活気ある教区を取り戻し、受洗者数や召命の数が増えるのかをみなさんに聞くことにした。しかし、シノドスアンケートを集約して分かるように、教区レベルになると、小教区と違い配慮すべき課題が多く、方針を絞ることは簡単ではない。信徒数の違いや教会の一員である意識の違い、地域環境や生活基盤が違っているため、教区全体の方針を決めることは議員たちにとって大きな問題であった。議員たちは何度も話し合ったし、書面での意見のやりとりをしてきた。そうして教区の方針として一つのテーマを決めた。しかし、



得た。その結果、教会から離れた原因となった理由として、信仰、人間関係、結婚問題、信仰教育、仕事、健康、経済問題などが出てきた。しかし、ここに挙げられた理由には、「教会に行けない」「行きたくない」「あるいは「無関心」の意味も込められている。

(1) 教会に行けない

ある子どもが教会学校に1人で来た。普段は親がついてきてくれるのだが、その日には親の都合で一緒に行けなかった。カテキスタは1人で教会に来たその子どもをほめて、また来なさいと言って帰した。ところが、その晩に親から電話がきた。親がついて行けないときには子どもを教会には行かせませんからと。子どもは1人では行こうにも行けないのである。また、学習塾やクラブ活動を優先するように親から言いつけられている場合。その他、仕事の都合で、あるいは体が弱ってしまいタクシー代が出せない。また、教会から認められない結婚のために秘跡が受けられないので、行く勇氣が出ないなどの理由がある。

(2) 教会に行きたくない

教会に行っても行かなくてもあまり生活に影響が感じられず、特別に何か得することもない。それどころか教会の帰りに交通事故に遭ってしまった。教会での人間関係でつまずき、近づきたくない気持ちになってしまった。本人にも問題はあるかもしれないが、司祭・修道者・信徒にも原因がある。また、仕事で体が疲れ休日だけはゆっくりしたい。せっかくの休み、レジャーを楽しみたい。教会が困っている人や貧しい人たちへの配慮に欠けている。離婚問題で教会から叱責されたことが傷として残っている

などの理由がある。

(3) 教会に無関心

幼児洗礼は受けたもののその後の信仰教育をまったく受けておらず、教会に関心をもてない。また、教会組織は一般の社会組織と同じと考えており、教会に所属しているのは必要、利益、便宜のためであって、内面的価値を認めているわけではない。そのため教会への関心はなく、簡単に所属する組織を変えることができるように宗旨変えできると考えているなどの理由である。

3. 解決策としての提言案

教会から離れた理由はさまざまであるために、教会が取つていかなければならない解決策もまたさまざまである。議員たちは教会から離れた主な理由を考慮し、必要な解決策としての提言案を採択した。その結果、教会から離れた方々への対策として最も多く支持されたのが「司祭の霊的刷新と生涯養成」であった。しかし、司祭ばかりではなく、修道者や信徒も含め、いま一度、教区のみなが回心し信仰者としての成熟をあらためて目指すことを提言内容に含めることが条件となった。

次に支持されたのが「新しい信仰教育のあり方」であった。長崎教区も以前と違って、家族で信仰を生きることから、個人で信仰を生きる形態に変わってきた。大学進学や就職で親元から離れていく若者が1人になっても信仰を生きることができるようになり、また家族の中で1人だけ洗礼を受けている場合、そうした状況の中で信仰を生き、さらに家族に宣教できるようにもなってもらうための教育のあり方を考え直さなければならぬ。

第3に「いのちへの奉仕」が支持された。教会は行政とは異なり、福祉を目的とするのではなく、神に愛され、人に愛されている喜びからおのずと貧しい人や苦しんでいる人たちへ愛の手を差し伸べていけるようになることがこの提言案の大きな特徴である。

そして、4番目に支持されたのが「家庭の福音化」であった。家庭に祈りを取り戻し、教会に近づくようになるために、また異結婚によって信仰を捨てることなく、かえって家族に宣教できるようにするために周囲の協力が求められる。

日本カトリック司教協議会教令

Prot. CBCJS 14-1

教皇庁典礼秘跡省は2013年5月1日付の「教令」(Prot. N. 215/11/L)をもって、ミサの第2、第3、第4奉献文の取り次ぎの祈りに聖ヨセフの名を加えることを定めた。日本カトリック司教協議会は、現行『ミサ典礼書』の各奉献文の該当箇所を以下のように修正することを認可し、2014年6月23日付で教皇庁典礼秘跡省の認証を受けた(Prot. N. 150/14)。

【第2 奉献文】

なお、わたしたちをあわれみ、
神の母おとめマリアと聖ヨセフ、
使徒とすべての時代の聖人とともに
永遠のいのちにあずかせてください。

【第3 奉献文】

選ばれた人々、神の母おとめマリアと聖ヨセフ、
使徒と殉教者、(聖○○○○、[その日の聖人または保護の聖人名])、
すべての聖人とともに神の国を継ぎ、……

【第4 奉献文】

いつくしみ深い父よ、あなたの子であるわたしたちすべてが、
神の母おとめマリアと聖ヨセフ、
使徒と聖人とともに、
あなたの国で、約束されたいのちにあずかることができますように。

また、以上の修正に合わせて、第1 奉献文の該当箇所を以下のように修正する。

全教会の交わりの中で、わたしたちは
まず、主イエス・キリストの母、
光栄ある終生おとめマリアを思い起こし、
聖ヨセフ、使徒と殉教者、ペトロとパウロ、アンデレ、……

これらの修正された式文は、2014年11月1日(諸聖人の祭日)から日本において発効することを宣言する。

2014年9月4日

日本カトリック司教協議会会長 岡田武夫

奉献生活者のための特別年

長崎教区では11月22日に開年ミサ

今年1月、教皇庁奉献・使徒的生活会省は、2015年を奉献生活者のための特別年とすることを発表した。15年は、第2バチカン公会議(1962〜65)『修道生活の刷新・適応に関する教令』公布50周年の年。特別年は、教会が観想生活者のために祈る2014年

今年1月、教皇庁奉献・使徒的生活会省は、2015年を奉献生活者のための特別年とすることを発表した。15年は、第2バチカン公会議(1962〜65)『修道生活の刷新・適応に関する教令』公布50周年の年。特別年は、教会が観想生活者のために祈る2014年

今年1月、教皇庁奉献・使徒的生活会省は、2015年を奉献生活者のための特別年とすることを発表した。15年は、第2バチカン公会議(1962〜65)『修道生活の刷新・適応に関する教令』公布50周年の年。特別年は、教会が観想生活者のために祈る2014年

11月21日(金)に開年ミサ。生活者の存在はきわめて必要とされています」と述べ、特別年に向け、「今からこの取り組みをおとめマリアと聖ヨセフにゆだねたいと思います。おとめマリアと聖ヨセフは、イエスの両親として、最初にイエスにささげられ、また自分の生涯をイエスにささげたかただからです」と語った。長崎教区では、開年ミサを11月22日(土)13時から浦上教会で行う。

11月21日(金)に開年ミサ。生活者の存在はきわめて必要とされています」と述べ、特別年に向け、「今からこの取り組みをおとめマリアと聖ヨセフにゆだねたいと思います。おとめマリアと聖ヨセフは、イエスの両親として、最初にイエスにささげられ、また自分の生涯をイエスにささげたかただからです」と語った。長崎教区では、開年ミサを11月22日(土)13時から浦上教会で行う。



その他はそれほど目立った支持は得なかったが、単独では提言案とならなくても支持された提言案の中に含まれる。このように採択にあたって条件を付けてほしいとの意見が多かったため、これまでの提言案をそのまま採用するのではなく、議員の意見を考慮し、準備段階からはじめ第3会期までの意見集や議事録などをもと

に、シノドス議員の承認を得た有識者からなる専門委員会のメンバー5名(宮川師古果師、牧山師、白浜師、湯浅師)が、古果師を中心に最終提言案作成に取りかかることになった。

早速、今作成に取りかかっているが、作成してもらった最終提言案を次の会期までに議員へ送付し、意見を収集する予定である。そして11月の第4会期で最終提言案を承認し、大司教に提出する運びとなっている。

おわりに

教区シノドス開催が近づいてきた頃、長崎教区に本部を置いている3修道女会(お告げのマリア修道会、けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会、純心聖母会)が、『みつあみの会』を結成して、「信徒発見150周年を目前に、長崎で生まれ育った3つの女子修道会が共に祈る時をもつことになりました。受け継いだ信仰の恵みを感謝し、深め、すべての人と分かち合うためです」をキャッチフレーズに「教区シノドスのため、全教会のため、すべての人のため」毎月第1土曜日の夕方に祈りを捧げるようになった。シスター方はこの祈りの会をシノドスが終了しても続けていく計画である。それぞれの修道院でも祈りを捧げて

いることはもちろんであるが、シスターたちが修道会の垣根を越えて一緒に祈りを捧げる動機になったのは、長崎教区をはじめ、すべての人たちに対するシスターたちの愛情から、何かをはじめたいと思ったからだと思う。修道会と一緒に心を合わせて祈るようになってくれたことは、長崎教区が新たに動き出すための大きな力になってくれるに違いない。さらに小教区で、個人で熱心にシノドス会期中の祈りを捧げてくださっている姿に接し、ここに長崎教区の信仰の基本を見る思いである。

また、シノドス開催にあたり、第1会期では司祭団5名とシスター11名が書記を担当し、第2会期では別の司祭団6名に長崎教区、大阪教区、横浜教区の大神学生9名が、そして、第3会期ではそれまでとは別の司祭団6名、純心聖母会、お告げのマリア修道会からシスター7名、長崎教区大神学生3名そして純心聖母会志願者1名が書記をこころよく引き受けてくださった。

この多くの方々のシノドスへのあたたかい気持ちのこもった協力やみなさんの祈りは、議員たちをしつかりと支えた。彼らの協力に心から感謝したい。

教区シノドス中央委員会

委員長 山脇守

教会に必要な〃信仰のセンス〃の回復

この「信仰のセンス」は教導職を補うべきもので、教会の発展に欠かせないという意味も教会の中に強まってきた。教会が教理と管理を重視し過ぎると、民のところが圧迫され、センスは麻痺してしまうおそれがある。ところが特に最近、いわゆる民主主義社会の世論と違うこのセンスは、どの条件の下に正しいものと見なされるかについて、さまざまな議論がある。私は、教会と共に、イエスと共に、世界の人々と共に感じる (sentire) という3つのことを条件として挙げて、考えてみたいと思う。

去年就任した教皇フランシスコは、マルタハウスに移った時、あるインタビューに応じて、「私には神の民のただ中において、

アルスを目指して歩む共同体

川上師は、かつて巡礼で訪れたアルスでの体験を交えながら、今後の抱負を語った。

多くの教会、各方面から援助と協力をいただきまして今日の深堀教会が誕生しましたことを、心より感謝申し上げます」

それからキリスト者として最善を尽くすことを決意し、それぞれの生活の場へと帰って行った。

参加者は次の通り。浦上1、稲佐1、西町1、本河内2、深堀3（善長谷1）、時津1、水主町1、三浦町2、大野2（皆瀬1）黒島3、上神崎1、福江2、三井楽1

れからはキリ
スト者として
最善を尽くす

人権意識を大切に行っている欧米人に比べて、日本人は思いやりや親切心、助け合いの精神、柔和なところといった人情を大切にしていると言われる。その温かさはたとえばミサの平和の挨拶の時に、隣の人に平和を願う人々からしみじみと伝わってくる。だがミサが終わり、教会の玄関の前で同じ隣の人と再び顔を合わせると、互いに知らん顔をして、挨拶もせずに、さっきの心遣いが無関心な姿勢に変わることが多い。日本では儀式の時と普段の時の態度がどうしてこんなに違うのか疑問に思うと同時に、日本人が大切に行っている人情が福音の光に照らされ、儀式主義や狭い村社会の枠から解放されたら、真の愛に徐々に変わり、日本教会独自の良い味が出てくると確信している。そのために皆が意識してイエスのところに倣うことは一番必要。その意味で教会の社会活動と並び、イエスに倣うという目的を持った信心業も必要なのでは

いメロディーを唱え、喜びに満ちた温かい開かれた霊性を持っている。日本でもテゼだけではなく、イエスのところに触れさせる新しい信心業が欲しいと思った。

イエスは、あらゆる方面からさまざまな苦しみから癒やされるために集まつた群衆を見て、憐れみに動かされた（マルコ6：34）。こうした群衆は世界の人々の象徴だらう。何かを始める前にイエスはまず群衆を見ている。イエスの行つた最初の説教とパンの分け合ひは、あらかじめ群衆から離れたところで準備されたものではない。今も変わらないはずで、人々との関係の中でもさまざまな共感を得てこそ、教会の言葉と儀式が生かされると思う。

私は最近15年ぶりに小教区に戻つたが、そこに生きている人々の地域を感じた。

昔の教会は時代の悪から人を守るために必死だったが、第2バチカン公會議は時代のしるしを見分けながら、迎合ではなく、時代と積極的に向き合うことを訴えている。これから特に時代の流れである世俗化、多様化、相対化の意味、そこに潜んでいる脅威的だけではなく、さまざまな可能性を発展的に考えるのは大事。教会にある社会活動への参加も重要だが、「小さき人々」うんぬんと、お題目の繰り返しに終わらないように願いたい。イデオロギーより、実践のヤンスはこれから今まで以上に重視されるべきではないか。

東日本大震災の復興活動を通して、日本の教会は出て行き、奉仕の心情、傾聴と寄り添いの姿勢、受け入れのこころといった福音のセンスを学び、イエスの愛を示し、貧しい人々への神の慈しみを伝えることができたと、大きな恵みであったと思う。

の価値は、立派な教えや組織とか、集まった人の良さではなく、神の選びにあると強調していた（Ⅰコリント1・26）。互いを選び合っている人々の集団原理ではなく、神の選びとわざを中心として成り立った教会を理解するには、神学知識よりも、神の志が示された幼子のような者の信仰のセンスが必要である。このセンスは、神がここに共におられ

ヨハネの黙示録をテーマに

10月5日（日）カトリックセンターホールにおいて、教区生涯養成委員会（中濱敬司委員長）主催による公開聖書講座が行われた。



者は信仰に踏みとどまりながらも、厳しい現実

に限界を感じて

いた。その共同体に対して、『困難な状況すら神の計画の中にあり、必ず悪は滅び去る、だから忍耐強くとどまり続けるように』というのが黙示録のメッセージである。」

「注意したいのは、この世の悪が減ばされるのであって、自分たちを苦しめる悪人が減ばされるのではない。(信徒発見150周年を記念する) 私たちは、迫害を生き抜いた人たちの模範に倣わなければならないが、迫害の中で自分たちを守ろうと内向きになっているこのメッセージを、黙示録のメッセージを、外に開かれた寛大な愛のメッセージで補っていかなければならない」

参加者の一人は、「ヨハネ黙示録の解説を今回初めて深く聞くことができた。講座を受けて、親しみがわいた」と語った。

佐世保地区女性部研修会

10月5日、相浦教会において佐世保地区評議会女性部研修会が開催され、片岡瑠美子修道女(純心大学学長)による講演会が「信徒発見150周

代」「潜伏の時代」
「復活の時代」に
区分して、分かり
やすく話していた
できました。講演
を通して、私が子どもものの
頃から幾度となく耳にし
てきた「信徒発見」の4
文字が、私の中でまさに
映像となつて浮かび上
がつてきました。死をも

恐れずプチジャン神父を訪ねた杉本ゆりたち15名ほどの勇氣ある信徒たちの姿、そして「われらの心、みな、あなた様と同じ」というゆりのことば……聖堂に入ってからずっと芳しい香りを放っていた祭壇の大輪の百合の花が私の目を釘づけにし、その美しく凜とした姿が、杉本ゆりの姿と重なりました。

親から子へ、孫へと手渡された信仰。私たちはもつと誇りと自信を持って大切にしていかなければならないと思います。

川棚教会 廣田まゆみ

隠された火が炎へと

殉教者の血はいつもキリスト信者の種であります。……誰も知らない谷間にかくされていた火が、雲間から太陽の光が再び照り輝く時、新に大きい焔となって明るく輝くようになったことも、殉教者達の力強い取次とその隠徳との然らしめるところであります。(信者発見100年祭と高山右近逝去350年祭に際し、教皇特使パウロ・マレラ枢機卿に送られた『教皇パウロ6世の親書』より)

福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭



9月21日(日)すがすがしい秋晴れの下、田平町焼罪史跡公園で福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭が行われた。

平戸地区司祭団をはじめ各小教区から集まった約300人の参列者を前に、高見三司教は、キリストにすべてをゆだね信仰を証した殉教者の模範を述べながら、現代に生きる私たちの信仰問題について問い掛けた。

「信仰の交わり、関わりがなくなっているのではないでしようか。潜伏時代のキリスト者たちは、秘密の仕組みを作り、共に寄り添いながら信仰を育み伝えてきました。しかし今、家庭でキリスト

を知り、伝える仕組みが壊れてきているのではないでしようか」

そして、翌年に控えた信徒発見150周年について触れながら、福者の模範を通して恵みの年を準備するよう論じた。

「信仰者は、祈り・感謝・学びを中心に生活しなければなりません。命を懸けてキリストの教えを伝え、信者カミロ・コンスタンツオ神父の強い信仰を遺産として、私たちもその生き方に倣いましょう。愛し、優しく接し、ねたまず、憎まず、苦しむ人と共にその痛みを分かち合ひましょう」

聖トマス西と十五殉教者祭

記念日当日にあたる9月28日(日)、聖トマス西と十五殉教者祭が行われ、各地から多くの人々が集まり祈った。長崎教区主催、長崎南地区評議会運営。

始めに14時から西坂公園で、これまで中町教会に設置されていた16聖人の一人、聖ロレンソ・ルイス像の移動設置祝福式があり、その後、中町教会までロザリオを唱えながら行列。続いて中町教会



聖トマス西と十五殉教者は、1633(37)年の間に西坂で殉教。日本人9、スペイン人4、イタリ

第12回フィリピン支援地訪問

8月1日から5日まで、シナピス会が支援するネグロス島のバコロドに、6人のメンバーで行ってまいりました。台風11号・12号が発生したところで、天気が気がかりで出発したもの、幸いに全く雨にもあわず予定通りに帰国でき、ほっといたしました。

シナピス会では、マニラとバコロドの子どもたちを奨学金で支援していますが、今回は飛行機の便が良く、マニラ乗り換えでバコロドまで1日で行けるようになり、バコロドのみの短期訪問となりました。

バコロドにはいつも、奨学金のほか支援物資を持参していますが、今回もノートや鉛筆に加え、楽器を持って行きました。これらは2009年、教区の高校生と同行した折に各教会から寄せていただいたもので、持てるだけ持参しています。また、前回ラウロンという郊外にある僻地の小学校

島原・天草

殉教福者記念の集い

1620年、ローマ教皇からの勅めしの手紙に添えて、島原半島の信徒代表12名は、殉教の決意をこめて御札の手紙を送った。そこには「私たちキリスト信者はなんのとりえもない貧しい者ですが、神さまの子どもと呼ばれる身分にしたい。ただき、また教皇様と心を合わせ、同じ思いで生きられることを幸せに思います」と綴っている。

また、来年信徒発見150年を迎えるが、発見の時、杉本ゆりは「ワレラノムネ、アナタノムネトナジ(ここにおります私

私たちは終戦時、旧浦上教会のすぐ下に住んでいた被爆者の家族です。69回目を迎える原爆記念日にあたり、今まで家族内で聞いたことを簡単に追憶させていたが、最近紛失した家庭用の十字架の十字架です。

この十字架は、一家の疎開先の一本木の家で不思議と燃え残ったもので、姉が毎年この時期に祈るために江平の墓(経の峰の墓地)に持ってきて、原爆と戦争で亡くなった家族のために祈っていました。姉によりますと、昨年の墓地参拝から帰宅した時、その十字架がないのに気づき、すぐに墓まで帰って探して回ったのですが、もうすでに

探しています 原爆で焼けた十字架を

聖アウグスチノ修道会 山口正美

にとつてはとても大事なものでからです。まして原爆の遺留品ともなれば大変大事にしたいものだからです。

私は終戦生まれで、原爆の時にはまだ生まれていませんでした。隣の家は数年前に亡

少年兵として佐世保海軍に入団しており、レイテ島で戦死しました。8月9日の当日の朝、空襲警報とともにその日に限って異変を感じた母は、「今日は何か起こるかもしれない」と言って、疎開先の一

本木に兄弟姉妹3人と母のお腹にいた私を連れて疎開しました。しかし、しばらくして何も起こらなかったため、2人の兄弟を帰宅させた時、帰り道で被爆してしまいました。兄は当時学徒兵として大

連絡先 山口正美神父 カトリック港教会 愛知県名古屋市中港区 錦町25-17

TEL 052-389-1841 FAX 052-384-1935



「教会歴史文化遺産評議会」の設立

9月19日(金)開催の教区顧問会で、教会歴史文化遺産評議会の設立が承認された。

長崎教区には世界文化遺産候補の構成資産以外にも、青砂ヶ浦教会や堂崎天主堂などの教会堂、「珠冠のまぬある」や「セビリアの聖母」などの書物や版画など多数の文化遺産がある。今回設立が承認された教会歴史文化遺産評議会は、歴史研究を基盤として、これらの「遺産の保全と活用

①歴史部会 遺産の歴史的価値についての研究と、啓発活動の企画と実施に関する事項を取り扱う。

②展示部会 博物館、資料館の運営

③巡礼部会 『長崎の教会群インフォメーションセンター』との連携、教会訪問者受入に関する事項を取り扱う。

④保全部会 保全計画の作成と実施、資金作り案の作成と実施に関する事項を取り扱う。

今後、具体的人選を進め、初回評議会が開催されることになる。

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 12月11日(木)～17日(水) (11/26締切)
 - 1月15日(木)～21日(水) (12/24締切)
 - 2月12日(木)～18日(水) (1/28締切)
 - 3月12日(木)～18日(水) (2/25締切)
- 申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。 TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460



には、直接奨学金は援助していませんが、22年前シナピス会では水を引く支援をし生活を支えました。そして訪問のたびに小学校の建設を市長に働きかけていたのが実り、2006年には2クラスの小さな教室ができていました。

その後、訪問のたびにクラスが少しずつ増えていきましたが、今回幼稚園から小学6年までの教室が完成しており、小学生210人とのことでした。職員室などありません。教室の隅にある机が各先生の部屋なのです。現在電気も通っています

が、悩みはトイレが2つしかないこと。手洗いも外見だけではできていたが、ホースを引くお金がないため、校庭の隅に未完成のままでした。私たちが「子どもたちの学用品にでもお使いください」と渡した寄付金3000ペソを、校長先生は集まった児童と保護者や先生方に公表し、その金をホース代に使わせてほしいと言われ、その場から了承されました。私たちも異議はありませんでした。

シナピス会 山口瑞代

若者に信仰の意味を問う

相浦教会の中高校生がイタリア巡礼



受け事前準備を経て、この巡礼が実現した。「ハブニングは期せずして起こるもの、いい思い出の味付けでもあります」(葛嶋師)「子どもたちが召命を考えると、きつかけとなり、将来、教会の要となってくれたら」(山内さん)との言葉通り、ハブニングの中にも信仰を見つめる恵みの旅となった。

★ ★

相浦教会の7人の中高校生と長崎の大学生1人が8月18日から1週間、同教会主任の葛嶋秀信師と同小教区評議会議長の山内茂雄さんの計10人でイタリアを訪れ、ローマとアシジを巡礼した。

巡礼の目的は、「信徒発見150周年に向けて、若者が信仰の価値を見つけ、その喜びを伝える勇気をもろう」こと。小教区共同体の支援を

ンピエトロ大聖堂など。24日帰国の途に。

★ ★ ★

今回の巡礼で、実際にいろいろな教会を見たり体験をしたりすることができ、普段はできない経験をする事ができました。

中3 小川南

ローマの教会で一番印象に残っているのは、フランシスコ・ザビエルの手が置いてある所です。そのままだったので驚きました。コロッセオや真実の口などにも行けたので楽しい1週間になりました。

中3 塚本彩子



飛行機に乗って、客室乗務員の方とても短い会話だけ英語が少しできました。中3 藤田涼花

も通じたといううれしさがあったし、もっと英語を話したいなあって思うことができたので、とても良い経験になりました。

中3 岩永紗耶華



マリーナ 大泉哲子修道士 (純心聖母会)

9月26日、長崎市三ツ山町のロザリオの聖母修道院で逝去。88歳。1926年宮城県生まれ。56年入会、58年初誓願、67年終生誓願宣立。初誓願宣立後は、浦上修道院(長崎市)、八王子修道院(東京都)に派遣された。



マリア 畑原キクノ修道士 (お告げのマリア修道士会)

9月29日、平戸市の養護老人ホーム光の園で逝去。93歳。1921年2月20日平戸市大久保町に生まれ、40年6月18日上神崎修道院入会。58年10月25日初誓願、65年6月28日終生誓願宣立。

入会当初は、農耕の傍らカテキスタとして教会奉仕に励み、その後保育事業に携わり、子どもや保護者らに神の愛を伝える奉仕に長年力を注いだ。晩年は司祭館奉仕にも携わったが、8年前、くも膜下出血により体が不自由になり、養護老人ホームで多くの方々の援助をいただきながら祈りの生活を送った。いつも控えて、愛情いっぱい奉仕生活だった。

葬儀ミサ・告別式は10月1日、上神崎教会で行われた。

その(重い皮膚病を患っている十人の)中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。(ルカ17・15〜16)

教会にいます。ある方の納骨でお祈りが終わったあと、親族の方が「あと一つだけお付き合ってください」とおっしゃいます。お墓に入るとき、おじいちゃんの好きだった歌を歌ってあげるからと約束していましたので、子どもさんとお孫さんたち20人ほどが歌い始めました。「神さまといつもいっしょわたしたちみんな……ありがたう 神さまありがたう たくさんのおめぐみを……」

思いいます。そんな私たちが、ともに神さまにつながっているのだと。あるときイエスさまは、エルサレムへ上る途中、10人の重い皮膚病の人に出会います。イエスさまに願い、10人は清くされますが、戻って来てイエスさまに感謝して過ごしたいのです。

みことばにふれて

中野健一郎神父 (浦上教会)



教会にいます。ある方の納骨でお祈りが終わったあと、親族の方が「あと一つだけお付き合ってください」とおっしゃいます。お墓に入るとき、おじいちゃんの好きだった歌を歌ってあげるからと約束していましたので、子どもさんとお孫さんたち20人ほどが歌い始めました。「神さまといつもいっしょわたしたちみんな……ありがたう 神さまありがたう たくさんのおめぐみを……」

思いいます。そんな私たちが、ともに神さまにつながっているのだと。あるときイエスさまは、エルサレムへ上る途中、10人の重い皮膚病の人に出会います。イエスさまに願い、10人は清くされますが、戻って来てイエスさまに感謝して過ごしたいのです。

新刊良書

片岡弥吉全集2

踏絵・かくれキリシタン

著 片岡弥吉

250年におよぶキリシタン弾圧―良心の虐殺ともいえる絵踏みを強いられた人々を描いた「踏絵」。仏教を隠れみのに信仰を伝承した人々、なかでも1873年のキリシタン禁令の撤廃後もなお、潜伏を続けた「か

まじどおしいねクリスマス

訳 二つばきうたこ

編 MAME

イエスさまのご降誕に向けて心を備える24の物語。ドン・ボスコ社、税別1200円。

お知らせ

一葉募金から200万円を「広島土砂災害支援」

としてカトリック広島司教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

教区へ送金しました。

短 信

〈司祭団ソフトボール〉

9月30日、佐世保市大

学4年 深堀理美

くれキリシタン」。キリ

シタンを根絶やしにした

大村藩「郡崩れ」類族帳。

片岡弥吉自身が収録し昭和48年に発表したオラ

シヨ。それら全てを収録。

智書房、税別3200円。

★ ★ ★

まじどおしいねクリスマス

訳 二つばきうたこ

編 MAME

イエスさまのご降誕に

向けて心を備える24の物

語。ドン・ボスコ社、税

別1200円。

別1200円。

別1200円。

別1200円。

別1200円。

感謝

― 香典返し ―

長崎カトリック神学院

●二股和也様(跡次)

故シモン二股健一様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

感謝

― 香典返し ―

長崎カトリック神学院

●二股和也様(跡次)

故シモン二股健一様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

感謝

― 香典返し ―

長崎カトリック神学院

●二股和也様(跡次)

故シモン二股健一様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011

24時間営業 FAX(095)843-9896

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

☎長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8436

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598

大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛

本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地

TEL (0956) 31-8268

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)847-7151

844-1420

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨセフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551

FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦1899-1 TEL (0959) 64-3101

FAX (0959) 64-3102